

令和7年度 浜松市立曳馬中学校 学校評価報告書

I 令和7年度の方針・目標

○基本方針（中長期ビジョンを含む）	○学校教育目標【夢と希望と勇気を持って生きる生徒の育成】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自他の命を大切に作る人づくりを推進する。 2. 発達支援教育の理念を根幹に据えた教育活動の展開。 3. 情報活用能力等、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む生徒を育成する。 4. 学ぶことの意義を理解させ、学習の基礎・基本の定着と深化充実を図る。 5. 人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 6. 望ましい生活習慣を身に付けさせるとともに、気力・体力・忍耐力等を育むことを目的とする「健康教育」を推進する。 7. コミュニティ・スクールの充実等、家庭や地域とともにある学校づくりを推進する。 8. 曳馬小・上島小との連携を深め、9年間の学びと育ちをつなぐ小中一貫教育を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ○学校経営目標【自分らしさを大切に、よりよい集団づくりに取り組む生徒の育成】 ～「自律」「共生」～ 多様な人と共生しながら、人間関係の基礎や社会的ルールを学び、子供たちがたくましく自律して生きていく生徒を育成していく 1. 自律的に生きていく力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさを大切にしながら自分の意志をしっかりと持つことができる。 ・自ら定めたルールに従って行動を選択することができる。 ・自分のことを大切にしながらも、まわりの人のことを考えて生活することができる。 2. 社会の中で共に生きていく力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分とはちがう体や心の特性、考え方もつ人を認めることができる。 ・お互いを分かり合うために話をしたり、支え合ったりしながら生活していくことができる。 ・積極的にお互いを理解し、助け合う中で生き生きと自分の能力を発揮することができる。

II 自己評価

○生徒の評価

※数字の単位は%

①先生は、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。	93
②先生は、興味や意欲を高める授業を工夫している。	89
③先生は、それぞれの生徒の特徴に応じた学習の手助けを行っている。	83
④私は、学級活動・生徒会活動・学校行事に積極的に取り組んでいる。	85
⑤私は、部活動（校外活動）に積極的に取り組んでいる。	90
⑥私は、学校生活において、規律のある行動を心掛けている。	89
⑦先生は、間違えた行動に対して適切に指導している。	90
⑧先生は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	86
⑨先生は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	91
⑩先生は、将来の進路や職業などについて適切に指導している。	83
⑪学校は、三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい。	78
⑫私は、地域の活動やボランティア活動に積極的に参加している。	58
⑬私は、学校だよりや学年だよりなどの配付物は家の人に確実に渡している。	77
⑭学校は、私たちの安全確保や健康管理のための取組を十分行っている。	93
⑮私は、曳馬中学校の生徒であることに誇りをもっている。	88
⑯私は、進んで誰にでも挨拶ができる。	81

○保護者の評価

※数字の単位は%

①学校は、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。	73
②学校は、興味や意欲を高める授業を工夫している。	71
③学校は、それぞれの生徒の特徴に応じた学習の手助けを行っている。	57
④子供は、学級活動・生徒会活動・学校行事に積極的に取り組んでいる。	87
⑤子供は、部活動（校外活動）に積極的に取り組んでいる。	87
⑥子供は、学校生活において、規律のある行動を心掛けている。	90
⑦学校は、子供の間違えた行動に対して適切に指導している。	83
⑧学校は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	82
⑨学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	76
⑩学校は、将来の進路や職業などについて適切に指導している。	67
⑪学校は、三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい。	84
⑫学校は、家庭・地域と積極的に連携・協力している。	79
⑬学校は、便りやホームページ、その他の方法で情報を発信している。	93
⑭学校は、子供の安全確保や健康管理のための取組を十分行っている。	88
⑮子供は、曳馬中学校の生徒であることに誇りをもっている。	77

III 分析考察や改善策等

全体の傾向として、保護者の平均肯定率は80%、生徒は85%となっており、昨年度（保護者78%、生徒84%）と比較しても学校運営に対して概ね高い評価が得られている。

1. 高く評価されている点（強み）として「学校の便りやホームページ等での情報発信」について、保護者の93%が肯定的であり、「安全確保や健康管理」についても保護者（88%）、生徒（93%）ともに非常に高い評価となっている。「規律ある行動」については、保護者の90%、生徒の89%が心掛けていると回答し、生徒自身が「曳馬中学校の生徒であることに誇りをもっている」割合は88%と高く、学校生活への満足度の高さが伺える。いじめ防止への取り組みについても生徒の91%が、学校がいじめのない集団づくりに取り組んでいると評価している。
2. 今後の課題とされる点については、保護者と生徒の間で授業に対する評価に差が見られ、特に「個々の特徴に応じた学習の手助け」については、保護者の肯定評価が57%と全項目の中で最も低くなっており、家庭への学習支援状況の可視化や、よりきめ細やかな対応が期待されている。進路指導と相談体制についても、特に保護者側でさらなる充実を求める声があると考えられる。また、生徒の「地域活動やボランティア活動への参加」は58%と低迷しており、学校外での社会貢献活動の活性化が課題となっている。
3. 総合的な考察として、学校側からの積極的な情報発信や、安全・規律面での指導は保護者から厚い信頼を得ているが、授業の工夫や個に応じた指導については、生徒自身の満足度ほどには保護者にその成果が伝わっていない、あるいは家庭が求める水準に達していない可能性がある。
 今後は、生徒が感じている「授業の分かりやすさ」や「個別のサポート内容」を具体的に保護者へ伝え、理解を深めていくことが、学校全体の評価をさらに高めると考え、次年度は学校公開日を増やす計画となっている。

IV 学校運営協議会による学校関係者評価

令和8年2月19日（木）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、分析及び改善方策について委員へ報告した。委員からは以下のような意見があった。

- ・⑬の生徒評価が低い。どんな便りを渡していないか捉えておく必要がある。さくら連絡網で配信しているならよい。
- ・③の保護者評価が低い。公開授業を増やしても個々の手助けにはならず、保護者評価へ結び付かない。生徒評価は悪くないため、今のまま一人一人の生徒に親身に接していけばよい。
- ・⑫の生徒評価が去年も低かった。小学生時代より地域とのかかわりが希薄になる。PTAの資源回収も地域の活動だという発信をしてほしい。学校でも地域とかかわる企画を組んでほしい。
- ・いじめ対策への保護者評価が低い。取組や対策がうまく伝わっていないようなので、年度初めにさくら連絡網等で方針を発信するとよいと思う。

V 今後の改善方策等

学校関係者評価を基に、以下の点を中心に改善を図っていく。

- ・資源回収は回収物の量に対して役員の負担が多く、場所の確保も大変であることから、来年度いったん廃止する。他の方法でボランティアの企画を考えていけるよう、ボランティア活性化への仕組みづくりを行いたい。
- ・いじめ対策について、年度初めに本校のホームページにある「いじめ防止等のための基本方針」について、さくら連絡網でリンクを貼って、保護者へ周知したい。
- ・1年生の総合的な学習の時間において「防災」がテーマとなっており、今年度はふじのくにジュニア防災士の資格を取得した。また、令和8年度は地域を知るフィールドワークも新たに計画されており、さらに地域と防災でつながっていきける方策を考えていきたい。